

挨拶

謝 辞

被表彰者代表

近 藤 健 治



ただいま紹介いただきました近藤でございます。本日は功労者の表彰をいただきまして、まことにありがとうございます。

ここにいらっしゃる他の受賞者の方々の多大なご苦勞やご貢献は存じ上げておりますので、そのような方々を代表してと言われると非常に恐縮ですけれども、私の思い出話になってしまうかもしれませんが、一言ご挨拶申し上げたいと思います。

私は2015年、JIPAの常務理事を拝命しまして、その後、2016年、2017年と理事長を務めさせていただきました。幸運を引き当てる力を持っているわけではないですが、理事長をやっている2年間に、何年間に一度というような場面に出くわす機会をいただくことができました。

3年前のこの総会で理事長を拝命して、その5日後に、ちょうど五極の特許庁長官・ユーザー会合が東京でございまして、スピーチの機会を得ることができました。

その翌年は、日中企業連携の10周年記念ということで天津に行きまして、そこでもスピーチをさせていただく機会を得ました。

理事長最後の3月には、これも本当にちょうどですけれども、三極の特許庁長官・ユーザー会合が箱根でございまして、嶋野技監にもご一緒させていただきました。そのときには共同議長を仰せつがい、ちょっと冷やっとするこもあつたんですけれども、何とか乗り切ることができて、今はもう忘れないぐらいの非常に貴重な経験だと思っています。

このように、たまたまのめぐり会いではありましたが、普通では経験できない、JIPAならではの経験を味わわせていただきまして、今振り返ってみますと、人生の中で大変充実した期間だったと思っております。もっとも、2度目の理事長の話をお願いしたのは、これが一番まれなめぐり合わせだったかもしれません。

さて、昨年、JIPAの先輩方のご活躍を伺う機会がございました。そこでは、リーマンショック後の非常に大変な時代のご苦勞の話をお伺いすることができ、その当時のご対応には非常に頭が下がる思いをしたのを今でも覚えております。私がJIPAにおりました期間というのは、リーマンショックのような大きな大変さはなかつたんですけれども、ビジネス環境が大変大きく変わっていく時代でした。その中で、知財のあり方とかJIPAそのものも変わっていかねばいけない、そういった時代だったと思います。

身近なところでは、それまで殿様商売で会員の勧誘をしていたところを少し変えて、積極的にJIPAを宣伝するためのパンフレットをつくったり、JIPAや知財をより身近に感じてもらえるため

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

に、「季刊じば」を発行いたしました。これについては会誌広報委員会の委員長だった大塚さんと担当理事だった熊谷さんは非常に尽力されました。本当にありがとうございました。

それから、遠方の方々にも、研修に参加しやすくなるということで、サテライト研修も始めました。これは人材育成委員会委員長の芳之内さんと、このコンテンツについては講師の方々および専門委員会の方々、北嶋さんは国際第4委員会委員長をされていましたが、そういう方々の支えもあって、何とかやることができたと思っています。

また、ビジネス環境が変化している中で、より多くの経営者の方々にも知財の大切さを知ってもらおうということで、会長、副会長の方々にもご登壇いただいて、企業経営者向けのグローバルビジネスシンポジウムというのも開催いたしました。これはここにいらっしゃる櫻井さんが非常に尽力されました。本当にありがとうございました。

さらに、JIPAシンポジウムでは、参加される方々に、より経営者の視点を持って知財を捉えていただくということで、会長のみならず、副会長にもご登壇をお願いするということになったのも、この頃かと思います。萩原副会長、ぜひ、今年はよろしくお願い致します。

このように、歴代の会長、副会長をはじめとして、多くの方々の大きなご支援があったおかげで、JIPAの活動をやってこられたとっております。本当に深く感謝しております。ありがとうございます。

最後になりますが、そのような皆様方からのご支援に対しまして、改めて深くお礼と感謝を申し上げますとともに、我々産業界は、これからもっともっと変わっていかねばいけないとっておりますので、今後のJIPAの活動が、日本ひいては世界の産業の発展に貢献されますことを祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。

